

ニューストップ 国際 欧州・ロシア 記事詳細

[PR]

【**中国**・**台湾**・**国際**半島 | アジア | 米州 | 欧州・ロシア | 中東・アフリカ | 写真 |

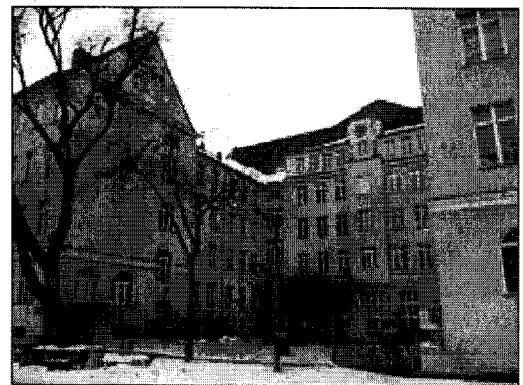
メール メッセ 印刷

【外国人参政権 欧米の実相】 (1) 教師が学校閉鎖を求めた (1/5ページ)

2010.4.10 07:55

ドイツのベルリン州ノイケルン区。イスラム系移民の統合を促し統合政策の柱に教育を据える。憲法に相当するドイツ基本法への忠誠などだ。それでも統合のために移民に地方参政権を与えるには至っていない。

「教育をまともに受けていないイスラム系移民の割合が多すぎる。教育を経てからでなければ、参政権の付与は認められない」



2006年3月、教師が学校閉鎖を求めたベルリン・ノイケルン区のリュトリ基幹学校。ドイツの外国人参政権問題の核心があった(木村正人撮影)

そう語るのは、区の移民担当官、アールノト・メンゲルコツホ氏。区内ではかつて“事件”があった。

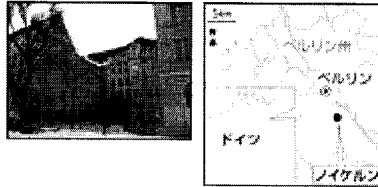
2006年3月、同区にあるリュトリ校(中等教育)の教師全員から、連名でベルリン州教育相に手紙が届いた。「生徒はノートや鉛筆も持たず爆竹を鳴らし、教室のドアをけて入ってくる。学校は彼らにとって戦場であり、教育が成立する余地はない」。手紙は学校閉鎖を求めている。

1909年創立のリュトリ校は、大学進学率が高いギムナジウムとは異なる教育水準が低い基幹学校。反ナチスの活動拠点でもあったため、43年には閉鎖され、敗戦とともに再開された。そうした歴史をもつリュトリ校も、教師が生徒の暴力に耐えきれなくなり学校閉鎖を要求するという事態は、前代未聞だった。

メンゲルコツホ氏は「女子生徒が手をナイフで突き刺されたり、髪の毛に火をつけられたり、学校の荒れ方は想像を絶していた」と振り返

る。

このニュースの写
真



PR

[利用規約](#) [プライバシーポリシー](#) [知的財産ポリシー](#) [よくある質問](#) [サービス一覧](#) [RSS一覧](#)



Copyright 2010 The Sankei Shimbun & Sankei Digital

このページ上に表示されるニュースの見出しおよび記事内容、あるいはリンク先の記事内容は MSN およびマイクロソ
掲載されている記事・写真などコンテンツの無断転載を禁じます。

[プライバシー](#) [使用条件](#)

Japanische Presse – The Sankei Shimbun

The article explains the situation about one school in Neukölln as a past experience. It says the authority tried hard to deal with Muslim community and survived about the vote and political participation of immigrants. It shows the seriousness of the situation. Few Japanese reader understand the specific cases as Neukölln but as Germany in general.